

## 405 nm 高精度ラマン分光用OEMレーザー

TOPTICA Photonics、産業用ラマン統合向けに強化されたTopMode 405単一周波数レーザーを発表

ドイツ、グレーフェルフینگ | 2026年4月15日

TOPTICA Photonicsは、産業用OEM環境における高精度ラマン分光向けに設計された単一周波数ダイオードレーザー「TopMode 405」の再設計モデルを発表しました。

「産業用ラマンシステムには、高い光学性能だけでなく、長期安定性と生産環境へのシームレスな統合が求められます」と、TOPTICA PhotonicsのOEMレーザープロダクトマネージャーであるStéphane Juniqueは述べています。「強化されたTopMode 405により、OEMパートナーに対して、連続運転を前提とした安定かつ信頼性の高い励起光源を提供します。」



強化されたTopMode 405は、産業グレードのOEMラマンレーザープラットフォームとして位置付けられています。

ラマン分光において、励起レーザーはシステムの精度と再現性に直接影響します。TopMode 405は、コンパクトで統合しやすい設計と強化された堅牢性により、これらの要件に対応し、連続運転および高スループットの産業環境において安定した動作を実現します。

405 nmで動作し、最大100 mWの出力で発振する本レーザーは、強いラマン信号の生成を可能にすると同時に、標準的なシリコン検出器との完全な互換性を維持します。単一周波数発振を実現した狭線幅により、高いスペクトル分解能とインライン検査アプリケーションにおける測定再現性を確保します。

コアポジショニングおよび主な差別化要素

強化されたTopMode 405は、以下を兼ね備えた産業グレードのOEMラマンレーザープラットフォームとして位置付けられています。

- ・単一周波数405 nm発振
- ・優れた波長および出力安定性
- ・最大100 mWの出力
- ・産業グレードの堅牢性

強化されたTopMode 405により、TOPTICA Photonicsは産業分光向け単一周波数レーザーのポートフォリオをさらに強化し、OEMメーカーによるスケラブルかつ高精度なラマンシステムの構築を支援します。

TOPTICA Photonicsは、25年以上にわたり高性能レーザーシステムの開発および製造を行っています。そのポートフォリオには、光学量子時計、ラック統合型レーザーシステム、光周波数コム、半導体レーザー、超短パルスファイバーレーザー、テラヘルツシステム、さらに連続波ファイバーレーザーおよび増幅器が含まれます。

同社は世界中で600名以上の従業員を擁し、7つの事業体で構成され、8,000 m<sup>2</sup>以上の生産スペースを運用し、グループ全体の年間連結売上高は1億4,000万ユーロ(256億円)を超えています。

TOPTICA Photonics SE

Lochhamer Schlag 19

82166 Graefelfing

Germany

[www.toptica.com](http://www.toptica.com)

PR Contact

Mr. Jan Brubacher

+49 89 85837-123

[jan.brubacher@toptica.com](mailto:jan.brubacher@toptica.com)